

経営比較分析表（令和4年度決算）

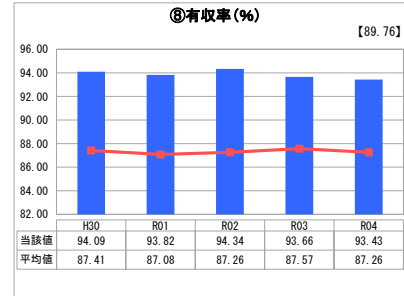
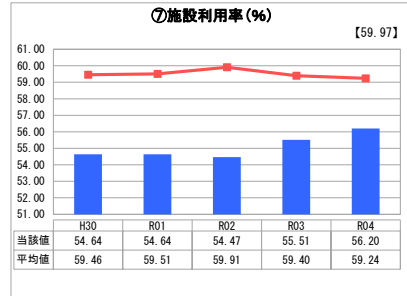
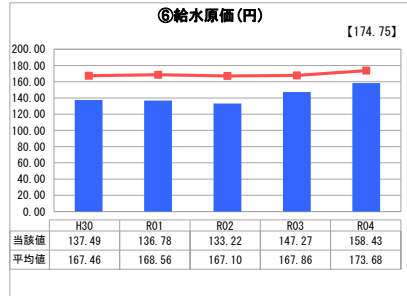
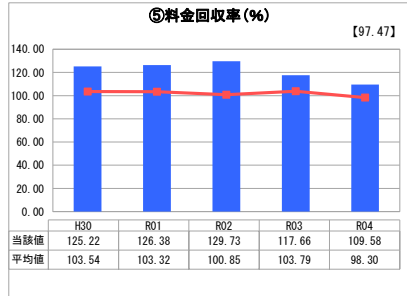
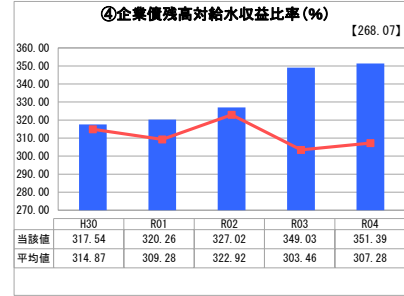
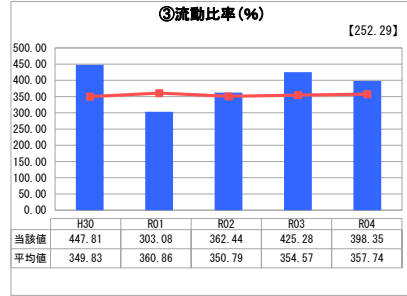
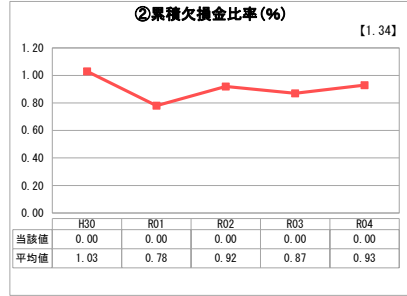
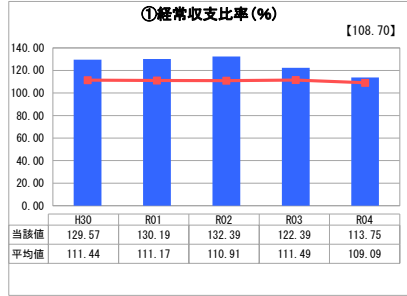
佐賀県 鳥栖市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	67.15	97.65	3,300	

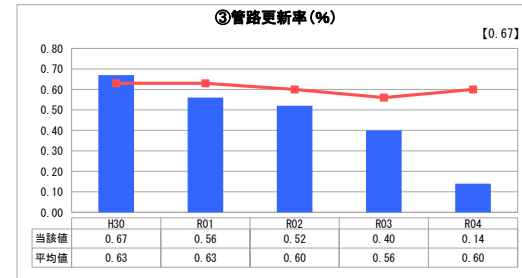
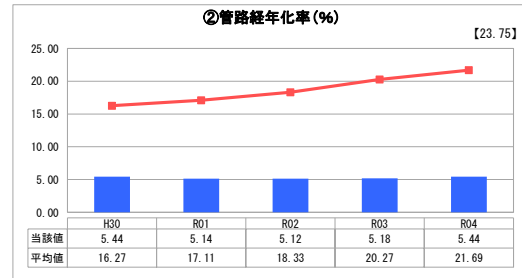
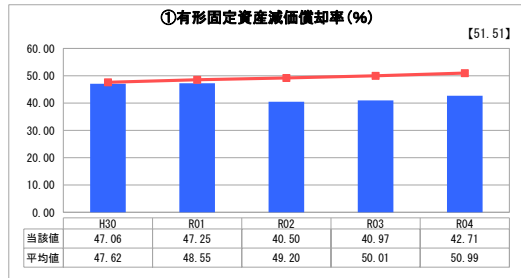
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
74,537	71.72	1,039.28
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
72,486	43.66	1,660.24

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率及び料金回収率は、類似団体平均値よりも優位であるものの、近年の物価高などにより徐々にその割合は低下してきている。
 その他の指標においては全国平均と比較し概ね良好な数値となっており、公営企業として妥当な経営状況となっている。
 企業債残高対給水収益比率が類似団体平均値よりも劣位となっているが、施設の老朽化対策等を推進していることに伴う財源として、企業債を発行したことによるものである。
 老朽化対策については標準化実施しているものの、今後も多額の費用が必要であり、それに伴い企業債残高も増加していく見込みである。

2. 老朽化の状況について

現在の水道施設は昭和40年～50年代に築造されたものがほとんどで老朽化が進んでいる。さらに、耐震化されていないものもあるため、安定した給水を行っていくために施設の更新が必要である。
 老朽化した水道施設の更新と耐震化及び非常時の対応強化等を図るため、水道ビジョンに基づき水道施設整備事業に取り組んでいる。

全体総括

経営の健全性・効率性に表れているように、現時点では良好な経営状況となっている。
 一方、現在進めている水道施設整備事業は、多額の費用が必要であり水道事業の今後の経営に影響を与えるものである。財源については企業債を見込んでおり、今後も企業債残高は増加していくものと見込んでいる。また、事業費の増加に伴う減価償却費等の固定費の増加が見込まれ、経営状況は厳しなものになっていくものと見込んでいる。
 本市は現在のところは人口が増加しているが、将来的には人口が減少していくことが見込まれるため、経営戦略等の改定などを通してさらなる経営分析ならびに将来を見据えた事業運営が必要である。